

【情報取扱い文例】全1ページ

この文例の知的所有権はペック研究所に帰属します  
告知する際には、適応判断が重要です

お願い

\*\*くんは自分が「自閉症」という脳タイプだと今はもう知っています。くり返しますが、「自閉症」であることは悪いことでも恥ずかしいことでもありません。では自己紹介をするときに自分の名前を言うのといっしょに「私は自閉症です」と話すほうがいいでしょうか。

先生はそう思いません。

「自閉症」という脳タイプだということは\*\*くんのとても大切な情報です。大切な情報はその大切さを理解して同じように大切にしてくれる人にだけ伝えるほうがよいでしょう。

だれに話してだれには話さないかは、お父さん・お母さん・〇〇先生と相談して考えていきましょう。他の「自閉症」の子どもたちの場合も、家族・クリニックの先生たち・担任の先生（もし信用できそうだったら）だけに話している人が多いです。

\*\*くんにお問い合わせがあります。

よこはま発達クリニックには「自閉症」の脳タイプの子どもたちがたくさん相談に来ています。たぶん、個別支援級にも「自閉症」の子どもたちがたくさん来ていると思います。

自分の大切なことを自分より先に他の子どもが気付いていたと思うとちょっとイヤだよね。それに大切なことは、おとなから直接教えてもらったほうが安心です。

だから\*\*くんが「あ、この子も自閉症かな」と気づいても、「自閉症」という言葉は言わないであげてほしいのです。

\*\*くんならきっとだまっていってくれると思います。

どうぞよろしくお願いします。

よこはま発達クリニック

〇〇 〇〇